

第2回 学校運営協議会報告



- 1 日時 令和6年2月7日（水） 午前10時から11時30分まで
- 2 会場 静岡県立池新田高等学校（静岡県御前崎市池新田2907-1） 小会議室
- 3 参加者 運営委員 内山 尚也 様 中部電力株式会社 浜岡原子力発電所 総務部長
水野 浩三 様 J A遠州夢咲農業組合 監査室 室長
漢人 隆弥 様 御前崎市スポーツ協会事務局長
西村 美香 様 掛川特別支援学校御前崎分校 PTA 副会長
※内山様、水野様は書面参加
学校職員 副校長、教頭、高等部主事、教務課長

4 内容

- (1) 副校長挨拶
- (2) 参観
- (3) 学校自己評価
- (4) 不祥事根絶の取組
- (5) 閉会



5 記録

(1) 副校長挨拶

- ・お忙しいところ御前崎分校第2回学校運営協議会に御参加いただきありがとうございます。校内の意見だけでなく地域の方々からの貴重な御意見を学校運営に生かしていきたいと思っております。今日は子どもたちの様子も見ていただくので、そこからもたくさんの御意見をいただきますようお願いいたします。

(2) 校内参観

- ・校内参観 作業学習（自主生産作業 手工芸班、革工芸班）を参観
＜感想＞

- ・目標がしっかりあって取り組んでいた。前回の産業祭販売会を踏まえた目標数があって取り組み、状況を見ながら、さらにもう少し上を目指していくという取組がよいと感じた。
- ・一生懸命取り組んでいた。また、新しいもの（製品）を開拓している姿がよい。

(3) 令和5年度学校自己評価について

＜今年度の教育活動より＞

- ・教育活動の柱である作業学習の製品販売会（大産業祭り販売会）では、運営委員の皆様により市との連絡調整や会場使用のサポート等の御協力をいただいた。その結果、生徒の力が発揮しやすい環境で販売活動ができ、大盛況で終わることができた。ぜひ、来年度も御協力をお願いしたい。

＜学校自己評価より＞

ア <安全・安心> 人権・個性を尊重し、安全・安心な教育環境、学校体制と教育の充実
生徒が安全・安心に生活することができ、活動しやすい教育環境の整備

- ・安心安全を視点を環境を整えることについて達成でき、生徒の重大事故も「0」だった。今後もヒヤリハットがあった際に連絡、報告、相談の徹底を行い防止に努める。

心や体の健康等、自己管理能力及び体力の向上

- ・生徒個々の目標を踏まえ、チェック表を基に対話をし、気持ちや身体の状態に対して必要な指導、支援を行っている。しかし、「自分自身の気持ちや体調を整える方法を知り実践できた」に対する生徒評価はわずかだが目標値に到達しなかったため、指導、支援を深めていく。

危機予測・回避能力向上のための安全教育・防災教育の推進

- ・緊張感をもって防災訓練に取り組むことができた。生徒はアンケートで地震や火災から身を守る方法が分かり行動できたと回答している。危機管理マニュアルについては、能登半島地震があったことから、さらに見直し共有していきたいと考えている。また、広域避難地について、地域や池新田高等学校との連携及び保護者への理解啓発を深めていきたい。

人権を尊重した教育の実践

- ・教職員へは年間3回の自己チェック評価、生徒には、年間2回の生活アンケートを実施している。その結果を踏まえた面談等の対応も行っている。

規範意識の向上

- ・生徒自身が学校のルールについて見直し、意見を出し合った。その結果、一部の校則を改訂（靴下、防寒具の色、制服の選択肢の増幅）した。さらに、自分たちで考えた校則を守ろうとする気持ちを引き出せるよう指導を深めていきたい。

チーム御分で取り組む体制づくり

- ・学年内で声を掛け合ったり、相談し合ったりできた。継続していく。

<運営委員より>

- ・規範意識の向上について、地域の中学校では自販機を導入した際、生徒主体で使い方を考えた結果、スムーズに利用できていると聞いている。ルールや規則について「こうあるべきと指導するのではなく、自分たちで考えルール作りができればよい。
- ・学校で防災学習を行っているので、子どもの防災意識が高まっていると感じる。「備蓄は大丈夫？」と、家庭で話題にしていたこともあった。

イ <授業>一人一人の自立と社会参加を目指した指導と授業づくり

卒業後の夢の実現を目指すための活動実践

- ・御前崎分校は、働く力を付けるため、教育活動に取り組んでいる。日々の積み重ねと生徒が現在の目標に向かって取り組むことを大切にしている。多くの生徒が日常生活の中で自分の目標を意識できているが、日々、自分を振り返り、次への目標に向かおうとするための指導支援については課題があるため充実を図りたい。

学習指導要領を踏まえた各教科等の指導の充実

- ・面談を通して行った個別の指導計画の目標や評価の説明が理解できたという保護者評価が高かった。今後も、分かりやすい説明を維持できるよう努めていく。

主体的・対話的で深い学びのある授業実践の充実

- ・教職員は、授業を通して生徒の成長を実感している。また、多くの生徒が仲間と共に活動する良さを感じて取り組めた教科や活動について回答できた。
- ・ICT機器の利用が進んでおり有効に活用できるようになってきた。

<運営委員より>

- ・面談では、詳しく質問に答えてもらい助かった。また、この学校では、生きていく上で必要なことを教えてもらえてよかった。

- ・産業現場等における実習について、仕事は自分が思い描いていることや好きなことと、実際やってみた結果は違うので実習で体験できてよかった。保護者も参観できるので、様子が分かり安心できる。子どもには長く働いてもらいたいので実習があることはよい。

ウく連携>家庭、地域、関係機関との連携と地域と協働した学校づくり

池新田高校との共生・共育を推進する

- ・池新田高校との合同行事で生徒同士が考えながら装飾したり販売したりする姿が見られた。池新田高校と常に隣接している環境での生活が、卒業後の共生社会につながっていくと感じる。一方で交流に苦手さを感じる生徒もいるので、全員が同じ目標でなく、個々に応じた目標で取り組んでいけるようにしたい。

地域の人材や教育資源を活用した活動実践と連携

- ・地域とのつながりの中で、生徒が目的意識をもって作業製品販売会に向かうことができた。
【事例】生徒が自発的に、今までの経験を生かし、人の流れの多いスーパーを調べに行き、新たな宣伝活動場所として加える事例もあった。
- ・地域事業所等に協力をいただき行っている地域作業内容、道の駅（売店のバックヤード、レジ）、バスの清掃、ドラッグストア（品出し、清掃作業）市役所（清掃、軽作業、事務作業等）、福祉会館、地区センター等（清掃作業）
- ・産業現場等における実習先の紹介
協力団体での中心活動（清掃業、介護、販売、リサイクル、清掃、サービス業、福祉事業所）

生徒一人一人の適性・希望を踏まえた進路指導の充実

- ・保護者には、進路だより、懇談会、学習会をとおして進路情報を発信してきた。生徒たちには、働く土台である生活が大事であることを伝えている。さらに、進路指導に対する教職員の専門性の向上を目指すための校内研修を充実したい。

学校及び生徒の魅力発信

- ・各学年週一回のペースで教育活動をホームページにアップしていくことを目標に取り組んだ。

センター的役割と地域や関係機関との連携

- ・地域の中学校、池新田高校、そして地域の関係機関と連携しニーズに応じて研修支援やケース会議等を行った。

<運営委員より>

- ・地域と連携し、そこに子供たちがかかわり、地域の人もかかわるという取組を重ねていくことで分校の情報発信になると感じた。
- ・こんなに多くの地域の方に協力していただいているということを知ることができた。子どもの進路として分校を選んだのは、交流があるということもある。その時にしかできない体験もすることができたと感じている。池新田高校の生徒にとっても、共生共育が社会に出てから生かされるとよいと思う。

(4) 不祥事根絶への取組

- ・生徒の交通事故、教職員の加害事故、情報漏洩は「0」であった。月ごとにテーマを決めてグループワークを中心に研修を行った。また、状況に応じて必要な情報は、職員打合せなどで共有している

<運営委員より>

- ・現場で対策をしても予期しない事が突発的に起こってしまうことがある。いろいろな取り組みをする中で、職場の風通しが良いかどうかも根底にあるのではないか。

(5)閉会

副校長より

- ・改めて、地域の皆様に大変お世話になっていることを感じた。他校の分校に勤務していたときにも場を同じにすることの価値を感じた。共生・共育の中で学校生活を過ごしたことで、特別支援学校の教員になりたいと思った高校生もいた。教員が知らないところで、互いに理解し合っていることもある。いただいた貴重な御意見は次年度の学校経営に活かしていきたい。